

ストライキで強制出向攻撃阻止へ

強権的労務支配と対決し、スト権投票の100%達成を！

日刊
動労千葉

87. 7. 21

No. 2607

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二（二七）〇〇七

第17回臨時委員会開催7/18

七月十八日、千葉県教育会館において第十七回動労千葉臨時委員会が開催され、百八十名の委員、傍聴者が参加する中、当面最大の焦点となる出向攻撃に対し、「ストライキも辞さずたたかう」方針が決定され、これを突破口に総攻撃に打ってでることが確認された。すべての組合員のみならず、第十七回臨時委員会決定方針を各職場で討議を深め、全力で反撃に打ってよう！差別・選別攻撃を全組合員の総決起ではね返し、反転攻勢に打って出よう。

報告1



「ふたたび闘いの時が来た」と挨拶する中野委員長

新会社、鉄道労連の破綻は明らか、反撃の絶好のチャンス到来

分割・民営化が強行されて三カ月余り、すでにその失敗が目に見える形で明らかになってきている。

第一は、JRの経営が完全に行き詰っていることである。そもそも莫大な国鉄の借金を単にJR各社に振りわたるにすぎない分割・民営化体制がうまくいく訳がない。ましてや、動労千葉・国労を破壊するための労務政策一辺倒ではうまくいくはずがないのである。「4・1体制」は、国鉄問題の解決どころか、より大きな矛盾の爆発にむけてスタートした一つの節目にすぎない。

第二に、分割・民営化攻撃の最大の狙いであった動労千葉・国労の絶滅攻撃が完全に失敗していることである。鉄道労連脱退を決定した鉄労が、中曽根-JR当局のすさまじいテコ入れでよりを戻した。しかし、今回の分裂劇の原因は動労が革マルであるという事実だ。この事実が消そうと思っても絶対に消えない。

そしてまた松崎は、この「不倫の仲」のよりを戻すために、また日帝にもう一步踏みこんだ忠誠を誓った。「日の丸を掲げた労働運動」をやる」というのである。「日の丸を掲げた労働運動」とは、日

帝のいいなりに、当局のいいなりになり、奴隷になるということだ。ますます、これによって大きな矛盾の爆発は避けられない。

そして、何よりも、動労千葉・国労の職場生産点の労働者がたたかい続ける限り、「一企業一組合」は絶対に破産することは明らかである。

そうした意味で、われわれは絶好のチャンスを迎えている。

「分割・民営化体制」は闘うのか
屈服するか二つに一つだ

差別・選別、強制配転、出向をはじめとした労働組合つぶしは、たたかうのか、それとも屈服するのかの二者択一をつきつけている。今回の攻撃は、労働組合の運動や活動さえ許さないという代物だ。

国労中央は、「出向命令差し止め」を労働委員会に提訴し、「出向命令の実施を保留し、当該社員が命令に従わなかった場合でも不利益な扱いをしてはならない」という勧告が出るというまたとない有利な状況にもかかわらず、何ら有効なたたかいを組んでいない。だから当局にナメられてしまっているのだ。

出向をはじめとした様々な攻撃を粉砕する道は、唯一たたかう体制をつくる以外にない。ストライキを辞さない、こういう体制を口だけではなくつくりあげなくてはならない。攻撃が激しいから、情勢が厳しいからといって逃げていては、労働組合などなくなってしまう。

当面、スト権一票投票を行い、一〇〇%の達成をかつとるために、全職場で討論をまき起こしていこう！

決定された方針

- 1 強制出向、悪質な不当労働行委にはストライキも辞さず闘う。
- 2 スト権投票は八月に実施する。
- 3 戦術は執行委で決定する。
- 4 スト体制強化へ向け、強権的労務支配と対決する取組抵抗闘争を強化し、不当労働行為には第三者機関の活用や大衆的街頭宣伝活動等を追求する。